

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 **建設事務事業**

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連
 有
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	前後駅前広場リフォーム事業(主要事業)							
1-2 担当	部	総務部	課 又は施設	防災安全課	係	防災安全係	評価票作成者	交通防犯担当係長 村瀬一幸
1-3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			基本施策	交通対策	コード	3 1 2
	項	道路・交通			単位施策(中)	駐車・駐輪場対策	コード	3 1 2 2
					単位施策(小)	駐車・駐輪場の効率的な管理運営	コード	3 1 2 2 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	駐輪場の利用者を対象		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	自転車等放置自転車禁止区域内の放置自転車対策のため、安全で快適な交通環境の整備を図り、既存の有料自転車駐輪場を増設し放置自転車等の防止に努める。			
1-5 事務事業の内容	前後駅有料自転車駐輪場の整備を行い、自転車等駐輪対策として駐輪場を増設し利用率を高め放置自転車の防止を図る。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	駐輪場の防犯対策に努め、利用者が安全で安心して利用できる駐輪場の整備を図る。	放置自転車がなく安全で快適な交通環境の整備を図るため、自転車等放置禁止区域内に放置させない環境づくり。	安全な交通環境を確保するため、駐輪場に防犯対策に努めることを推察すると、市民に好印象を与えている。		
	平成19年度	駐輪場整備にあたり、安全で安心して利用できる駐輪場の施工に努めた。	〃	〃		
	平成20年度					
	平成21年度					
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	前後駅前広場可能駐輪場台(台)		400台	――	自転車駐車対策として駐輪場を確保するため、現在整備されている有料自転車駐輪場の築造工事前と工事完成後の収容台数を設定した。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(収容台数)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	0	400								
	人件費 c(千円)	0	2,538								
	合計コスト d(b+c)(千円)	0	384								
	単位コスト d/a(千円)	収容1台当り0	収容1台当たり7	当たり							

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費は、前後駅有料駐輪場整備工事費(決算額)である。人件費は、平均賃金(3,200円)に担当課(3課120時間)が事務事業に要した平均時間単価として策定した。平成19年度完了。

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	0(台)	400(台)								
	後期目標値に対する達成度(%)	0(%)	100(%)								

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		-	A								

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているため継続する
 - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 - 公共性(公が実施する意味があるか)
 - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度	平成18年度	自転車駐車場の収容台数が増えることにより、自転車等の盗難防止対策が課題となる。	自転車等放置禁止区域内の放置自転車がなく安全で快適な交通環境の整備ができる。	駐輪場築造工事にあたり、自転車等の駐車スペースの確保を図り、利用者に対して駐輪場利用の啓発を図る。
	平成19年度	自転車駐車場の利用台数が増えることにより、駐輪場整備及び自転車等の盗難防止対策が課題となる。	"	駐輪場築造工事が完了したことにより駐輪環境の改善に繋がり放置自転車及び防犯の推進が図れた。
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度	平成18年度	-	
	平成19年度	A	事業完了
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		